

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	出入口や目につく場所に理念を掲示している。利用者に添った支援を第一に考えているので、日頃から生活に反映されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕の申し送りや、週1回・月2回のミーティングを通して、日々意見交換を行っており、基本的な考えは共有できている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進委員会を通して、地域の方や家族に利用者の日々の様子等話し理解して頂けるよう努力している。		理念を出入口に貼って、外部の人にもわかる様にしている。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩や買い物、受診等地域の方と出会った時は、気軽に挨拶や声掛けを行っている。		地域の方からの声掛けにより、大根、イチゴ他いろいろな季節の野菜を頂いている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、校区便りにいろいろな紹介されているので、文化祭・放生会・盆踊り・初詣等に参加させて頂いている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人大学や社協のボランティアさんにグループホームの紹介及び認知症についての講演を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	普段の業務を見直し、新たな気持ちで業務に取り組む意義を共有している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現時点での利用者の状況を報告している。参加者から質問もあるがアドバイスを頂く事もあり参考にさせて頂いている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の時、市の担当者に困っていることの相談や、ホームの資料などを市に持って帰って頂き、ホームのアピールをする様にしている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見制度を取り入れている人がいるので、月1回司法書士の面会の折に、疑問の事がある場合は、尋ねている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の介護上の悩み等ミーティングを通して話し合い、解決に向けて意見交換を行っている。	○	職員のストレスをためない為、交代で休憩を取ってリフレッシュしている。(健全な精神、肉体こそ健全な処遇に通じるものと考え、精神的、物理的虐待防止に努める)
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所で出来る事と出来ないことの説明を行い、受け入れられる条件を明記し説明のうえ理解して頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いはあらゆる生活の場面で言葉や動作、表情等に表れるので見逃す事のないよう、スタッフが情報共有し、改善にむけている。又、スタッフ間で話し合い利用者が戸惑う事のないよう処遇を共有している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回前月の行事風景を写真入りで、又、当月の予定や会計報告を書面で送付している。		健康状態や変化はその都度連絡している。現在の職員については、ボードにて写真入りで掲示している。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に必ず職員が対応し利用者の状況報告をする事にしており、家族からも意見や希望を言って頂いている。その事をミーティングにて話し合い改善に向けた努力をしている。ご意見箱を設けている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回、月2回のミーティングを通して意見交換を行い利用者の現状やこれからの話し合い改善に向けての勉強会をしている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	本人の希望等も取りいれ、無理のないシフトを組んでいる。急な休みの時にでも対応できる人員配置がされている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむおはず異動があった時は引継ぎを充分に行い新職員が馴染む迄は他のスタッフがカバーする様、配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い人材を採用している。各階に男性職員を1名ずつ採用し全職員がどの職場でも働けるよう育成していきたいと考えている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で新人研修を行っている。重要なことはミーティング等で発表し共有している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	親しくしているグループホームの見学には2～3人ずつ行ってもらいホームのよい所を取り入れたり、又、認知症対応型サービス事業者管理者研修へ職員が出来るだけ多く行くように努めています。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人にもう1箇所グループホームがあり運動会などの交流は行っており、マンネリ化しない処遇を話し合っています。同業者では、書類など書き方が解らないところは、問い合わせをすることがあります。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の誕生日にはプレゼントを用意したり、業務終了後1階の相談室でお茶の時間を設けているので、思い思いの話を1階の職員と2階の職員が行っています。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	取り決めとしては常勤職員は月2回の希望の休みを受け入れ、それ以上の希望の場合は職員間で相談して決めています。運営者も頻りに訪問しているので職員も向上心を持って働けるように評価をもらっています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に情報として大体の事は把握するようにしているが、本人と会って少しずつ本人の思いや不安、希望等を知る努力をしている。		ゆっくり時間をかけて馴染んで頂いている。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを受け止め、十分に話を聞くようにしている。ホームで対応できない場合は他のところを紹介している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事、必要としている事を、見極めこちらで対応できない時は他のサービスを紹介している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来ていただいたり、体験で宿泊も出来る様にしている。本人の不安を取り除く努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の発語や表情の中の思いを見逃す事なくスタッフ一同共有し、皆で共感出来るようにしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族と会話をする様にし、本人の生活の様子や変化等を話しており、改善策等一緒に考えて頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族には居室にてゆっくり過ごしていただける雰囲気作りをしている。家族への電話や家族から電話も気軽に応じている。		本人、家族の気持ちを最大限に尊重し、両者が異なる意見がある場合は適宜、調整している。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院、商店、病院等へ職員と一緒に出かけている。又、地域の文化会館へ映画やコンサートにも出かけ友人に会う場面もある。		法人内のデイサービス利用の友人のところへ出かけている。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の関係は職員が把握できており、トラブルになりそうな時は職員が間に入りとりなしたり気分を変える工夫をしている。		孤立している場合は職員が個別に対応する。外出、買い物等、趣味や好みに合わせて個別に対応している。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	短期の入院の場合は、見舞いに行ったとき退院時の注意などを聞き、退院の準備を行います。長期の場合は一旦退所の形になりますが、退院の目処がつくと次の退所者があれば、次の入所で退院の受け入れを行っています。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発語や表情等から本人の意向を把握するよう努め、実現に向けてスタッフ間で話し合っている。		生いたちから現在迄の生活環境を把握し対応している。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族からの聞き取りとその後の生活の中で本人より時間をかけて少しずつ聞き取っている。		プライバシーに配慮し聞き取っている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの知り得た情報を全職員で共有できるように仕事に入る前に必ず申し送りや記録に目を通すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向を取り入れその時々に応じた個別の計画をたてている。		本人が得意なものを見出しその事を伸ばし誘導する努力をしている。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを行っている。又、変化に応じて家族と話し合いプランの見直しをしている。	○	迅速臨機応変に対応していきたい。(毎月実施と評価を記入し変化がある場合はその都度見直しを行っている)
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉をそのままに記録していく方法を取り入れ、本人の思いや希望を支える工夫をしている。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族の事情により奥さんも一緒に夕食を食べて頂く事もある。又、家族や友人が宿泊されることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の駐在所の方、ボランティアさん、又、文化会館より催し物の招待状を頂き利用させて頂いている。		社会福祉協議会のボランティア、地域の慰問、駐在所も定期的に見回りに来ている)

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望により今まで馴染みの病院のデイサービスを利用される利用者を、病院のケアマネージャーと話し合い協力し支援している。		在宅で自立時代に利用されていたので引き続き家族と本人とデイケア担当者で話し合い料金を設定し利用されている。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市のグループホーム担当者には、報告事項について聞くことはありますが、ケアマネジメントの相談はありません。又、介護用品の相談はいたします。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人馴染みの病院を継続されている利用者も家族が希望されれば事業所の協力医療機関を利用して頂いている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に情報を提供し対応してもらったり、紹介してもらっている。		家族と一緒にってもらい助言を頂いている。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に2回看護職員が健康チェックをしておりますスタッフと気軽に相談できる関係を確立している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、本人や家族に不安を与えない様に相談に応じており退院に向けて関係者や家族と密に連絡を取っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃から家族の意向を伺い本人にとって望ましいケアを段階に応じてスタッフ、家族と話し合い共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力病院、家族等と話し合い本人にとって最善の支援方法を考え共有している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	相手先へは本人の状況や習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝えている。		今までに、家族の希望により1名の方が特養へ移られた事がある。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の人格、プライドを傷つけない介護を心がけている。	○	親しみながら対応し、慣れ合いにならないよう、気付いたら職員間で互いに注意し合える関係を作りたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に決定してもらおう声掛けを心掛けており言葉や表情を見逃さないようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ないところを少しでも手伝うように心掛けており自由に過ごして頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容室、移動理美容を利用されている。同じ服装が続いたりちぐはぐな服装の時は職員がさりげなく直している。	○	外出時や行事等改まった時には、化粧をして頂く。(自分でされる方もある)
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや配膳、お茶入れ等できる事は手伝って頂いている。職員も一緒に食事をし、楽しい時間を共有している。	○	目先を変えて庭での食事やたまには外食を取り入れる。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自室で入眠前のお酒を楽しまれる方や、コーヒーを自室で入れられる方等ある。	○	利用者同士が居室を訪問し合いお茶を楽しまれる関係作りが出来ている。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけオムツを使用しないよう排泄パターンを把握し、その人にあった排泄方法を支援している。	○	本人のプライドを傷つけない支援、1名の方が夜間のみオムツとポータブル併用で3時間毎にポータブル誘導している。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いせず、タイミングよい声掛けを工夫している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の記録で睡眠パターンは把握できている。その方のリズムで休息や睡眠が出来ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った出来る事をして頂いている。準備や仕上げ等は職員と一緒にやっている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い自己管理できる方は自分で持って頂いている。困難な方でも機会があれば自分の財布を持って支払いをしてもらっている。金銭保管マニュアルを作成している。		買い物に行きたい希望があれば職員1対1で出かけ希望の商品を購入されている。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は散歩に出かけている。買い物や美容院、病院、自宅等本人の希望を取り入れ外出している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	文化会館へコンサートや映画等、機会があれば出かけている。家族と芝居に行かれる事もある。	○	誕生月の日は職員と2人で本人の希望の所に行っています。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は自室に電話を引いている。希望に応じ、事務所の電話を利用して頂いている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会は自由にゆっくり過ごして頂いている。友人や家族が宿泊される事もある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はないが、ベッドからの起き上がりの為柵を1本使用している方がいる。家族には了解を得ている。	○	マニュアルを作成し定期的にミーティング等で勉強会を設けている。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に解錠し玄関も出入り自由になっている。畑へ出たり庭に水まきをしたり、玄関を散歩される。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼、夜共に利用者を把握できる位置にいて、全員の様子をさり気なく見守っている。	○	居室の小窓より中の様子を伺うことができるので、自室におられる時はそっと見守りを行う事が出来る。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を見極め危険と思われる物は目に付かないところに収納している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況に応じて起こり得る事故を想定し、対策を話し合っている。	○	1人ひとりの一日のサイクルを把握し、小さな異変も見逃さないよう、ゆっくりとした中にも緊張感を持って仕事する。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時受け入れは協力医と話し合っている。職員はマニュアルを通して日頃より勉強している。	○	職員は、消防署主催の普通救命講習を必ず1度は受講する事になっている。又、AEDを導入したので、周知徹底するよう勉強会をしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年1回実施しており、地域推進委員会を通して地域の方にも協力を呼びかけている。	○	職員間で定期的にシュミレーションを行う。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の現状や予測されるリスクについて家族等に説明している。	○	自由にのんびりご自分のペースで暮らして頂きたいので特に決まりは作ってないが、職員は常に緊張感を持って仕事に当たる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子をよく知り、変化や異常には速やかに対応できる様申し送りを周知している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬について知ることができる様説明書は個人別にファイルに明記している。何の病気に対する薬剤か用法、用量、副作用について把握している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材やおやつに工夫している。又、散歩や体操も取り入れ便秘予防に取り組んでいる。緩下剤の使用も時には見直しを行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは入居者本人に任せることが多いが、困難な方は職員が支援している。(自室の洗面所で歯磨きの準備を行い見守りながら支援する)	○	どうしても口腔ケアを拒否される方には、液体の歯磨きをして頂いている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日課表ファイルを作り食事や水分量をチェックしている。不足している方には代替品を提供している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防マニュアルは必ず作成し職員に徹底している。手洗い、うがいの習慣化。トイレを清潔に保ち、手洗後はウェルパスを使用している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎朝新鮮な食材が納品されている。台所廻りを清潔にし調理器具の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には季節の花を植えており、入り口は一面ガラス張りでホールが見渡せ、出来るだけ開放的な雰囲気を出すよう心がけている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアは台所から見渡せ、調理をする音や匂い、TVの音、音楽等家庭的な雰囲気で過ごして頂いている。	○	季節毎の飾り付けを利用者と一緒に準備作成し、楽しんでいる。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナー毎に座ってくつろげる場所を設けておりそのときの気分でその時に気の合った方々で利用されている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れた物や馴染みの品を持ち込んで頂き居室は自由に使って頂いている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を施行しホールには天井にファンを使用し空気のおよみがない様に心掛けている。温度調節はこまめに行っている。		ホール各居室に温度計を設置し場所毎の温度に気を配っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れる様、廊下や移動場所には手すりを設けている。又、浴槽、共有のトイレ等にも安全に使用出来る様工夫をしている。	○	転倒の危険がある方には、カーテンやポータブルに鈴を付けている。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	玄関のガラスには貼り物をして、ガラスがある事を示し誤認や錯覚がないようにしている。共有トイレが分らない入居者の為にトイレと書いた目印、また出入り口には各人毎、郵便受けや標示ボックス等を設け各人の部屋の特徴が出せる様、配慮している。居室が分らない方の為に大きなりぼんを付けている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑に野菜を植えている。草むしり、みずやり、収穫等を生きがいとされる利用者があり収穫した野菜を皆で楽しく頂いている。		ベランダへ自室で洗濯したものを干しに行ったり取り込まれたりする。又、夕日を拝んだり、外気を楽しまれる。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が健康でゆったり安心して過ごして頂ける様に、利用者主体の生活を支援している。利用者の表情が明るく生き生きとしていられたら、職員も元気に仕事ができ、又、地域の方々にもグループホームを認めて頂けると信じている。最終的には自分の家だと思って頂けるよう努力したい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	出入口や目につく場所に理念を掲示している。利用者に添った支援を第一に考えているので、日頃から生活に反映されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕の申し送りや、週1回・月2回のミーティングを通して、日々意見交換を行っており、基本的な考えは共有できている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進委員会を通して、地域の方や家族に利用者の日々の様子等話し理解して頂けるよう努力している。		理念を出入口に貼って、外部の人にもわかる様にしている。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩や買い物、受診等地域の方と出会った時は、気軽に挨拶や声掛けを行っている。		地域の方からの声掛けにより、大根、イチゴ他いろいろな季節の野菜を頂いている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、校区便りにいろいろ紹介されているので、文化祭・放生会・盆踊り・初詣等に参加させて頂いている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人大学や社協のボランティアさんにグループホームの紹介及び認知症についての講演を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	普段の業務を見直し、新たな気持ちで業務に取り組む意義を共有している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現時点での利用者の状況を報告している。参加者から質問もあるがアドバイスを頂く事もあり参考にさせて頂いている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の時、市の担当者に困っていることの相談や、ホームの資料などを市に持って帰って頂き、ホームのアピールをする様にしている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見制度を取り入れている人がいるので、月1回司法書士の面会の折に、疑問の事がある場合は、尋ねている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の介護上の悩み等ミーティングを通して話し合い、解決に向けて意見交換を行っている。	○	職員のストレスをためない為、交代で休憩を取ってリフレッシュしている。(健全な精神、肉体こそ健全な処遇に通じるものと考え、精神的、物理的虐待防止に努める)
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所で出来る事と出来ないことの説明を行い、受け入れられる条件を明記し説明のうえ理解して頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いはあらゆる生活の場面で言葉や動作、表情等に表れるので見逃す事のないよう、スタッフが情報共有し、改善にむけている。又、スタッフ間で話し合い利用者が戸惑う事のないよう処遇を共有している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回前月の行事風景を写真入りで、又、当月の予定や会計報告を書面で送付している。		健康状態や変化はその都度連絡している。現在の職員については、ボードにて写真入りで掲示している。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に必ず職員が対応し利用者の状況報告をする事にしており、家族からも意見や希望を言っている。その事をミーティングにて話し合い改善に向けた努力をしている。ご意見箱を設けている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回、月2回のミーティングを通して意見交換を行い利用者の現状やこれからを話し合い改善に向けての勉強会をしている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	本人の希望等も取りいれ、無理のないシフトを組んでいる。急な休みの時にでも対応できる人員配置がされている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむおはず異動があった時は引継ぎを充分に行い新職員が馴染む迄は他のスタッフがカバーする様、配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い人材を採用している。各階に男性職員を1名ずつ採用し全職員がどの職場でも働けるよう育成していきたいと考えている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で新人研修を行っている。重要なことはミーティング等で発表し共有している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	親しくしているグループホームの見学には2~3人ずつ行ってもらいホームのよい所を取り入れたり、又、認知症対応型サービス事業者管理者研修へ職員が出来るだけ多く行くように努めています。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人にもう1箇所グループホームがあり運動会などの交流は行っており、マンネリ化しない処遇を話し合っています。同業者では、書類など書き方が解らないところは、問い合わせをすることがあります。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の誕生日にはプレゼントを用意したり、業務終了後1階の相談室でお茶の時間を設けているので、思い思いの話を1階の職員と2階の職員が行っています。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	取り決めとしては常勤職員は月2回の希望の休みを受け入れ、それ以上の希望の場合は職員間で相談して決めています。運営者も頻繁に訪問しているので職員も向上心を持って働けるように評価をもらっています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に情報として大体の事は把握するようにしているが、本人と会って少しずつ本人の思いや不安、希望等を知る努力をしている。		ゆっくり時間をかけて馴染んで頂いている。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを受け止め、十分に話を聞くようにしている。ホームで対応できない場合は他のところを紹介している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事、必要としている事を、見極めこちらで対応できない時は他のサービスを紹介している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来ていただいたり、体験で宿泊も出来る様にしている。本人の不安を取り除く努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の発語や表情の中の思いを見逃す事なくスタッフ一同共有し、皆で共感出来るようにしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族と会話をする様にし、本人の生活の様子や変化等を話しており、改善策等一緒に考えて頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族には居室にてゆっくり過ごしていただける雰囲気作りをしている。家族への電話や家族から電話も気軽に応じている。		本人、家族の気持ちを最大限に尊重し、両者が異なる意見がある場合は適宜、調整している。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院、商店、病院等へ職員と一緒に出かけている。又、地域の文化会館へ映画やコンサートにも出かけ友人に会う場面もある。		法人内のデイサービス利用の友人のところへ出かけている。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の関係は職員が把握できており、トラブルになりそうな時は職員が間に入りとりなしたり気分を変える工夫をしている。		孤立している場合は職員が個別に対応する。外出、買い物等、趣味や好みに合わせて個別に対応している。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	短期の入院の場合は、見舞いに行ったとき退院時の注意などを聞き、退院の準備を行います。長期の場合は一旦退所の形になりますが、退院の目処がつかると次の退所者があれば、次の入所で退院の受け入れを行っています。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発語や表情等から本人の意向を把握するよう努め、実現に向けてスタッフ間で話し合っている。		生いたちから現在迄の生活環境を把握し対応している。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族からの聞き取りとその後の生活の中で本人より時間をかけて少しずつ聞き取っている。		プライバシーに配慮し聞き取っている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの知り得た情報を全職員で共有できる様に仕事に入る前に必ず申し送りや記録に目を通すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向を取り入れその時々に応じた個別の計画をたてている。		本人が得意なものを見出しその事を伸ばし誘導する努力をしている。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを行っている。又、変化に応じて家族と話し合いプランの見直しをしている。	○	迅速臨機応変に対応していきたい。(毎月、実施と評価を記入し変化がある場合、その都度見直しを行っている。)
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉をそのままに記録していく方法を取り入れ、本人の思いや希望を支える工夫をしている。	○	家族に喜んでもらえそうなエピソードを報告する様にしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族の事情により奥さんも一緒に夕食を食べて頂く事もある。又、家族や友人が宿泊されることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の駐在所の方、ボランティアさん、又、文化会館より催し物の招待状を頂き利用させて頂いている。		社会福祉協議会のボランティア、地域の慰問、駐在所も定期的に見回りに来ている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望により今まで馴染みの病院のデイサービスを利用される利用者を、病院のケアマネージャーと話し合い協力し支援している。		在宅で自立時代に利用されていたので引き続き家族と本人とデイケア担当者で話し合い料金を設定し利用されている。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市のグループホーム担当者には、報告事項について聞くことはありますが、ケアマネジメントの相談はありません。又、介護用品の相談はいたします。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人馴染みの病院を継続されている利用者も家族が希望されれば事業所の協力医療機関を利用して頂いている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に情報を提供し対応してもらったり、紹介してもらっている。		家族と一緒にってもらい助言を頂いている。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に2回看護職員が健康チェックをしておりますスタッフと気軽に相談できる関係を確立している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、本人や家族に不安を与えない様に相談に応じており退院に向けて関係者や家族と密に連絡を取っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃から家族の意向を伺い本人にとって望ましいケアを段階に応じてスタッフ、家族と話し合い共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力病院、家族等と話し合い本人にとって最善の支援方法を考え共有している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	相手先へは本人の状況や習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝えている。		今までに、家族の希望により1名の方が特養へ移られた事がある。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の人格、プライドを傷つけない介護を心がけている。	○	親しみながら対応し、慣れ合いにならないよう、気付いたら職員間で互いに注意し合える関係を作りたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に決定してもらう声掛けを心掛けており言葉や表情を見逃さないようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ないところを少しでも手伝うように心掛けており自由に過ごして頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容室、移動理美容を利用されている。同じ服装が続いたりちぐはぐな服装の時は職員がさりげなく直している。	○	外出時や行事等改まった時には、化粧をして頂く。(自分でされる方もある)
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや配膳、お茶入れ等できる事は手伝って頂いている。職員も一緒に食事をし、楽しい時間を共有している。	○	目先を変えて庭での食事やたまには外食を取り入れる。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自室で入眠前のお酒を楽しまれる方や、コーヒーを自室で入れられる方等ある。	○	利用者同士が居室を訪問し合いお茶を楽しまれる関係作りが出来ている。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけオムツを使用しないよう排泄パターンを把握し、その人にあった排泄方法を支援している。	○	本人のプライドを傷つけない支援、1名の方が夜間のみオムツとポータブル併用で3時間毎にポータブル誘導している。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いせず、タイミングよい声掛けを工夫している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の記録で睡眠パターンは把握できている。その方のリズムで休息や睡眠が出来ている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った出来る事をして頂いている。準備や仕上げ等は職員と一緒にやっている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い自己管理できる方は自分で持って頂いている。困難な方でも機会があれば自分の財布を持って支払いをしてもらっている。金銭保管マニュアルを作成している。		買い物に行きたい希望があれば職員1対1で出かけ希望の商品を購入されている。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は散歩に出かけている。買い物や美容院、病院、自宅等本人の希望を取り入れ外出している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	文化会館へコンサートや映画等、機会があれば出かけている。家族と芝居に行かれる事もある。	○	誕生月の日は職員と2人で本人の希望される場所へ行っている。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は自室に電話を引いている。希望に応じ、事務所の電話を利用して頂いている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会は自由にゆっくり過ごして頂いている。友人や家族が宿泊される事もある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はないが、ベッドからの起き上がりの為柵を1本使用している方がいる。家族には了解を得ている。	○	マニュアルを作成し定期的にミーティング等で勉強会を設けている。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に解錠し玄関も出入り自由になっている。 畑へ出たり庭に水まきをしたり、玄関を散歩される。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼、夜共に利用者を把握できる位置にいて、全員の様子をさり気なく見守っている。	○	居室の小窓より中の様子を伺うことができるので、自室におられる時はそっと見守りを行う事が出来る。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を見極め危険と思われる物は目に付かないところに収納している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況に応じて起こり得る事故を想定し、対策を話し合っている。	○	1人ひとりの一日のサイクルを把握し、小さな異変も見逃さないよう、ゆっくりとした中にも緊張感を持って仕事する。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時受け入れは協力医と話し合っている。職員はマニュアルを通して日頃より勉強している。	○	職員は、消防署主催の普通救命講習を必ず1度は受講する事になっている。又、AEDを導入したので、周知徹底するよう勉強会をしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年1回実施しており、地域推進委員会を通して地域の方にも協力を呼びかけている。	○	職員間で定期的にシュミレーションを行う。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の現状や予測されるリスクについて家族等に説明している。	○	自由にのんびりご自分のペースで暮らして頂きたいので特に決まりは作ってないが、職員は常に緊張感を持って仕事に当たる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子をよく知り、変化や異常には速やかに対応できる様申し送りを周知している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬について知ることができる様説明書は個人別にファイルに明記している。何の病気に対する薬剤か用法、用量、副作用について把握している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材やおやつに工夫している。又、散歩や体操も取り入れ便秘予防に取り組んでいる。緩下痢の使用も時には見直しを行っている。		朝食前に水分を取ってもらっている。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは入居者本人に任せることが多いが、困難な方は職員が支援している。(自室の洗面所で歯磨きの準備を行い見守りながら支援する)	○	どうしても口腔ケアを拒否される方には、液体の歯磨きをして頂いている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日課表ファイルを作り食事や水分量をチェックしている。不足している方には代替え品を提供している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防マニュアルは必ず作成し職員に徹底している。手洗い、うがいの習慣化。トイレを清潔に保ち、手洗後はウェルパスを使用している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎朝新鮮な食材が納品されている。台所廻りを清潔にし調理器具の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には季節の花を植えており、入り口は一面ガラス張りでホールが見渡せ、出来るだけ開放的な雰囲気を出すよう心がけている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアは台所から見渡せ、調理をする音や匂い、TVの音、音楽等家庭的な雰囲気で過ごして頂いている。	○	季節毎の飾り付けを利用者と一緒に準備作成し、楽しんでいる。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナー毎に座ってくつろげる場所を設けておりそのときの気分でその時に気の合った方々で利用されている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れた物や馴染みの品を持ち込んで頂き居室は自由に使ってもらっている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を施行しホールには天井にファンを使用し空気のよどみがない様に心掛けている。温度調節はこまめに行っている。		ホール各居室に温度計を設置し場所毎の温度に気を配っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れる様、廊下や移動場所には手すりを設けている。又、浴槽、共有のトイレ等にも安全に使用出来る様工夫をしている。	○	転倒の危険がある方には、カーテンやポータブルに鈴を付けている。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	玄関のガラスには貼り物をして、ガラスがある事を示し誤認や錯覚がないようにしている。共有トイレが分からない入居者の為にトイレと書いた目印、また出入り口には各人毎、郵便受けや標示ボックス等を設け各人の部屋の特徴が出せる様、配慮している。居室が分からない方の為に大きなりぼんを付けている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑に野菜を植えている。草むしり、みずやり、収穫等を生きがいとされる利用者があり収穫した野菜を皆で楽しく頂いている。		ベランダへ自室で洗濯したものを干しに行ったり取り込まれたりする。又、夕日を拝んだり、外気を楽しまれる。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人ひとりの思いを理解し、ゆったりと自分の時間で過ごして頂ける様に支援しています。ご家族に認知症を正しく理解して頂き面会の方も多く来られ、利用者がいい生涯だったと思えるよう、努めています。